

気付き支援型地域ケア会議アンケート【助言者向け】

職種	問1 会議の司会進行(タイムマネジメント、論点整理、まとめ等)は円滑にできていますか。		問2 質問や助言をするにあたって、工夫している点や課題に感じている点があれば教えてください。	問3 会議の中で印象に残った助言(質問や地域特性の紹介などを含む)があれば教えてください。	問4 会議での「気付き」は専門職として自らの業務に生かされていると思いますか。	問5 自らの業務に活かされる「気付き」を、自らの専門職団体内で広めていくために自団体でされていること、できそうなこと、行政として支援できそうなおがあれば教えてください。	問6 会議全体を通じて、ご意見やご感想があれば教えてください。	
		良かった点や改善すべき点などがあれば教えてください。						
主任CM		多職種の意見が聞けて良い。しかし課題がフォーカスされずらく、視点がずれても気付きがあればOKなら良いと思うがそうでなければ質問の方法を検討する方が良い。	「助言が欲しい点・解決したい課題など」について事例提供者がなぜその事例に着目したのかを意識して質問を重ねる。	地域特性は全ての事例に適用する内容なのでとても大事だと思う。	とても活かされている	栄養士、歯科衛生士、生活支援コーディネーターその他の皆様の意見「ハッ」とすることが多くあり、すぐに使う心掛けています。	事例検討会開催、自社内でのアウトプット等	
主任CM	とても円滑である	■事前に資料を配布してもらえ、読み込んで、下調べなどができ、助かる。 ■冒頭のアイスブレーキングの自己紹介タイムはとってもいい。集団の親密性・凝集性づくりの上で有効。 ■司会が、笑顔、柔らかな声、聞き取りやすい声でいい。サポートティブ、支持的な姿勢がいい。	■「助言者としての主任ケアマネ」の役割を整理し、その明確化・復習をして会議に参加するようにしている。 ① 事例提供者のケアマネジャーへのサポート、支持的態度ができること。ほめる点をみつけ発言する。非難・攻撃的なものからの防御・介入・フォローする。会議前後や会議中での支持的声かけ(励まし・承認・慰労の声かけ)。つい忘れて追及の質問もし反省。 ② 生活モデル、社会モデル、ICFモデル、POCモデル、当事者ストレスモデル、エンパワメント視点にたった包括的なアセスメントでの質問・助言ができること。特に、できること・興味関心への注目とそれをもとにした活動・社会参加づくり、役割づくり、地域共生・共助関係づくりへの助言。具体例として患者会、抗滞つまみぐいラリー、地域猫活動等の情報提供。 ③ 医療モデル・個別視点アセスメント、司会コメントに対して、理解・連携をすすめること。 他の方の助言等で、大事と思うことへの共感的応答、同意のうなずき・アイキャッチ・相槌などを積極的にを行い、場の雰囲気づくりをサポートする。医療観点が重要な点でフォローが必要と思えば介入する。具体例として、糖尿病管理ができていない事例(ヘモグロビンA1cが10.5、血糖値489の事例)の深刻さと危機介入の必要性の強調、13種の多剤投与の事例での副作用の危険指摘と見直し急務の強調。 ■短い時間でのコメントでは不十分と思い、12月の会議では、多剤投与問題と地域猫の資料を用意し配布した。	■社協からの地域特性、地域の社会資源(カフェなど)の情報と連携の話が毎回とても参考になった。 ■多剤投与問題を議論していた時、栄養士から、薬剤での血圧管理ではなく、日常の食事の塩分管理で高血圧管理の可能性の指摘があったこと。調理の仕事の経験から味が濃い目になりがちな指摘もあり、参考になった。薬剤の副作用だけを問題にしていたが、食事療法・生活づくりとリンクして薬剤の見直しをする視点を再確認した。 ■転倒リスクの議論の際、歯科衛生士より、奥歯の欠損があると歯を食いしぼることが弱くなり、食いしぼってふんばる力がないと転倒リスクが大きくなるとの指摘は学びになった。 ■多剤投与問題を議論した際、薬剤師から、薬をちゃんとめいていないと、それで症状が悪化し、さらに薬が増えるという悪循環があると指摘は参考になった。ちゃんと飲むと副作用が怖いとも思え、問題意識が深まった。 ■リュウマチの方の議論の際、リハ職から、手の動かし方、食器や福祉用具の選び方などの助言や情報提供があり、手ぶり身振りをまじえての発言が、とても参考になった。	とても活かされている	■アルブミンなど、血液でわかる数値を、数数年か月の単位で調べ、グラフ化して、担当学会で配布し、栄養対策、腎臓病・糖尿病・高血圧症対策の資料にし、ヘルパー、デイ、ショートでの食事検討につなげられた。	■主任ケアマネ達の役員会で、個々のアドバイザーまかせの助言状態を見直し、現在のアドバイザー内部での研修の実施、広く主任ケアマネ達の会員全体への研修を通じたアドバイザー養成の実施を役員会で提案した。 ■以前個人で受講した「介護予防推進研修 自立支援型ケアプラン作成 生活行為向上マネジメントを用いて思考プロセスを学ぶ」、潜在能力を引き出す自立支援型ケアプラン(神戸学院大学准教授・大庭潤平氏ほか、主催：福祉のまちづくり研修所)などが大変よく、その資料を役員会等で配布した。 ■行政として、上記の方の研修会などを開催してほしい。アドバイザー研修として、各アドバイザーに20～30分程度ずつ、各視点に立った自立支援の講義をしてもらい、相互研修・相互討論の場をつくってほしい。	■傍聴者もいったい誰なのか、名前と所属だけ自己紹介してもらえと、地域のつながりづくりにもなり助かる。 ■事例提供の際の資料はあんな沢山いるのか疑問。ケアマネジャーの負担が過大で、簡素化すべきと思う。 ■「興味・関心チェックシート」の「デート・異性の交流」について、以前より、この表現に違和感があり、現在、性的多様性の理解、LGBT尊重の原則に立つとき、異性愛主義に偏った現在のこの項目の表現は見直した方がいいと思う。尼崎市は昨年同性パートナーシップ証明制度の導入を発表。今年1月19日毎日新聞朝刊トップ記事で、「災害時、性的少数者配慮23%」の記事を掲載。
主任CM	とても円滑である		CM自身、充分なアセスメントしていた中での課題提出なので、できるだけサポートティブな発言心掛けています。	各々専門職の立場からの質問をして良かったと思う	活かされている	とかくCMは担当学会はあるものの、孤独であり、不安がつきまとう。専門職からの気付きはとても参考になる。	なかなか事例提出に躊躇していると思うので、どうしても各CMが事例提出をして自己研鑽ができるか居宅連、主任連で考えていきたい。	
主任CM	まあ円滑である	目的が割り切った身体的自立支援に特化している訳ではなく、サポートティブに支援者をフォローしなから利用者本人の性格や意向も含めて考えていくので、1事例に対しての時間が足りない感じを受ける。	この会議の趣旨がサービスはがしではない事を踏まえて、提出者は現在のプランになってしまっているが、提出をしたいと思っている【ギャップ】を聞く事で提出者のジレンマ・葛藤に寄り添えるよう心掛け各専門職からの専門的な違う視点からのアドバイスの後に、サポートティブな促しができるよう助言する	途中から社協の方が地域の特性やインフォーマルな活動を紹介してくれるのは良いと感じた	あまり活かされていない	各専門職が集まって違う視点からの質問を伺い、数値やエビデンスから導き出される助言は非常にためになり自分の知識や視野の広がりでとても活かされますがCMとしては利用者は現時点でのプランで満足している(必要なサービスのみを希望)今は困っていないCMが知識をつけてフレイル等のリスクを考えるほど、利用者とのギャップができる。私の感覚だがモニタリングで、促すが現状維持が多い。頑張るほど燃え尽きたり、利用者との関係悪化を懸念する(強制的な権限がない)高齢者の方に【数値やエビデンスから導き出される助言】をどう伝えて分かって頂けるか。ただ、御用聞きではなく必要な支援と自立支援を考えながらプラスの助言、利用者(市民)の協力があって活かされる事かなと感じた。	現状、動いて頂いている市民向けの介護予防(利用目標の明確化)。市民(利用者)はどのような目的で介護保険を利用するのか。軽度者の場合(助けてもらうのではなく、どのように自分で生活を維持できるか)の啓発、広報。	○今後の実践に伴い、CMに事例提出してもらう目的(会議の内容にあった事例提出が必要)お話し段階では主任CMの提出が多いが、経験度合いによっては参加で趣旨を動かしにくい ○私の感覚だが、事例が同じような内容になってしまいが、助言がマンネリ化し助言が減る傾向 ○私の認識不足で、会議を継続して数年後にどのような成果を求めるのか分からない ○利用者(市民)の自己決定・生活環境を踏まえて、どのように強制力などに促すか ○CMが1度提供したら、また提出してみたいと思う会議になっている
主任CM	まあ円滑である	専門職の方は、どうしても1度に2つ3つと重ねて質問される方がおられる。そこに担当CMも答える事に一生懸命になっているように見える。すると内容がかけ離れてしまい、解決したい課題をあげているので事例検討を的確に行おうと考えたと付随する質問を重ねること、内容が深まり気づきがあると思うかがでしように。課題が明確になれば事例提供者にやってよかったという達成感を感じにくいのではないと思う。事例展開の目的を明確にすることで解決すると思う。薬・栄養・歯科・機能訓練/等含む社会的復権(リハビリ)等全てが大切だと思うのでこの場面でその質問が有効に動くかはそれぞれが考えなければいけないのではなかと考える。	担当CMが明らかにしたい事を質問・助言では伝えたいと思っている。	毎回教えて頂く、生活コーディネーターの方が言われる民生委員の活動状況やボランティア等がとてもお願いしたいと思っています。できればマップにして頂けるととても助かるのではないかと密かに思っている。	活かされている	会議の中での、発言は気づきが多くある。問1でも記載したように、この場面で「何を明確にして行くのか」がわからないと新人ケアマネ等は気づくどころか、頭に????が飛ぶのではないかとと思。	介護支援専門員協会では、自ら気づいていくために情報の23項目を収集し分析・統合できることで見える化されることが多くあり、面接技法を上手く活用すること気づきが増える事がある。 例)笑顔で伝えてみる。反射させる。顔ををいれる等	介護支援専門員の立場から自身が出す際には、やはり出した課題に確りと向き合いたいと思う。他職種の意見はとても有効な意見がある。しかしタイミングがここから質問にはいるのかといつも思う。故意にかけ離れたところから中心に持っているような技法もあるが、まずは事例提供者の解決したい課題に注目することが大切だと思う。今後共どうぞ宜しくお願いいたします。

気付き支援型地域ケア会議アンケート【助言者向け】

職種		問1 会議の司会進行(タイムマネジメント、論点整理、まとめ等)は円滑にできていますか。	問2 質問や助言をするにあたって、工夫している点や課題に感じている点があれば教えてください。	問3 会議の中で印象に残った助言(質問や地域特性の紹介などを含む)があれば教えてください。	問4 会議での「気付き」は専門職として自らの業務に生かされていると思いますか。	問5 自らの業務に活かされる「気付き」を、自らの専門職団体内で広めていくために自団体でされていること、できそうなこと、行政として支援できそうなことがあれば教えてください。	問6 会議全体を通じて、ご意見やご感想があれば教えてください。
		良かった点や改善すべき点などがあれば教えてください。			自由記述		
主任CM	とても円滑である	事例により質問が進まない時もあるが、事例提供者が聞きたいことに焦点を当て助言者への質問の促していただき、要約も適時組み込めていてまとまりがあると思う。 初回の事例に関しては質問や提案もスムーズに進行していると感じているが、モニタリング事例では何を検討していくかの焦点化があれば検討や提案が進むのではと思う。 包括職員の司会は5回目で初めてだったので少し戸惑っている様子は見られたが、検討者もほぼ同一の顔ぶれで、包括の方ともずっと顔合わせをしている関係なので、回数が重ねればよりスムーズに運ぶように思う。	事例提供者の方が置き去りにならないように、質問で戸惑っている様子はないか確認しながら質問、助言を考えている。介護支援専門員として、事例を見ていると事例の内容(利用者の人となりや生活歴などを掘り下げていきたいが、時間も限られているので、まず事例提供者の方がどのような助言を求めているかを、資料を読み込みながら考えていく。 どうしても現在生活が成り立っていると思われる方の事例を出していたいので、事例提供者の方がこれを試してみようと思ってくれるものがあるのか、そこから利用者さんのプランの再検討に入れるのかいつも悩んでいる。	社協生活支援コーディネーターから事例の方の地域の活動について最初に説明していただき、自分の利用者さんの周辺以外の尼崎の地域の特性を知ることができ、参考になっている。 各専門職の方が事例を見たときにどの部分に関心を持つのか職種によってはっきりして自分とは違う視点を感じられ勉強になった。 特に食生活については生活の基本でもあり、具体的な提案をいっしょにしてくれるので、自分の利用者さんにも折に触れて話している。		現在生活が落ち着いておられる方の事例は、ほかのケアマネや専門職の方にあえて相談をすることなく過ぎており、ほかの方の事例を検討するうえで、自分でも確認しなければと思うことがいろいろあった。 血液検査も病気などの数値を見せってもらうことが中心でしたが、健康を考える上での数値を確認するようになった。 特に要支援の方は自分のご意見がはっきりしておられるのでお任せしていることも多かつたように思うが、モニタリング時の聞き取りに生活の何を見るのか、(体重変化や食生活、通院、服薬状況など)お元気だから大丈夫だろうではなく、アンテナを張っていかないとと思っている。	検討内容はこれでよかったのか、事例提供者の方の役に立っているのかいつも不安に思っている。事例提供者の方が参加してよかったと思っていたら、サポートをしていきたいと思っている。 ただこの会議の目的がみんなで気づいていくということ、大事なことだと十分わかっているつもりですが、できれば気づいた後にどのような行動変容を目指しているかははっきり提示していただくと嬉しいと思う。 事例提供者の方が、サービスを使いながら社会で利用者が果たせる役割を探して、お互いさまで人の役に立つことも考えて暮らしていただけるよう考えられるような場になればと思う。
歯科衛生士	とても円滑である	対象者へアセスメントをしっかり熟知されてから、会議で進行して頂いているので、各専門職もスムーズに課題→気付き→助言を開けている。いつもお話を聞きながら頭で想像している。	口腔への質問はCMさん方も尋ねにくそうに思う。基本チェックリスト項目にもう少し歯科専門、例えば歯の残存歯や義歯、食べにくい食材例などあれば今後あと一歩開ける項目で質問、助言の幅が広がると思う。これは歯科の課題でもあると思う。	食事面でのアイデアを対象者へお伝えすると改善出来る方もいれば、「ありがとう」で終わっているが受け入れてくれる事は一歩前進かと思う。	活かされている	この様な会議での課題を専門職間どう考えるか一人だけで考えず専門性のアイデアが日々の業務に活かされていると思う。	いろんなケースの方々への意見がCMさんを通じてご本人様の自立支援が継続されて行ける様に支援出来る事を願いたい。介入の難しさもヒシヒシ感じた。
歯科衛生士	とても円滑である	会議が始まる前に司会者の方が、毎回「テーマ」を決めて、参加者の自己紹介と共に「テーマ」について一言付け加えて話すことは、場の雰囲気が和んでも良いと思う。	「喋まない、しゃべらない、笑わない、磨かない、奥歯がない」という生活習慣が、確実に高齢者のQOL低下に繋がっていくので、意識して口を使い、奥歯を入れておくということが大事だとお話ししているが、利用者の方の行動変容に繋がるのは、困難と感じている。	地域で「100円食堂」「ふれあい喫茶」等、社会参加のためのいろんな催しが行われているということ、会議で初めて知った。地域の方も知らない人が多いと思うので、よりよい発信方法はないかな?と思う。	活かされている	訪問歯科衛生指導で在宅に訪問しているが、全ての専門職が介入している利用者は、ほぼ皆無。特に栄養士さんが介入している所は少なく、口腔ケア、口腔機能訓練と共に栄養についてのアドバイスが会議に出席してから活かされている。	地域ケア会議で得たことと、定期的なミーティング等で自団体に報告する事が大事だと思う。行政として支援できそうなこととしては、口腔機能低下のある高齢者に、歯科衛生士が在宅訪問指導を実施出来る事業を構築してほしい。
リハ職	とても円滑である		具体的なCMがどう動くか良いかまで話をする。利用者に対する助言で終わらない。		とても活かされている		私自身も勉強になっている。参加できることに感謝している。
リハ職	とても円滑である	会議の議題にそって時間配分がしっかりされており、発言がしやすい。	事例提供者のケアプラン批判にならないよう、当事者のために何かいい手立てがあるか一緒に考える。 事例提供者が取り組みやすい案をいくつか考えて、取り組みやすいものから提案する。 当事者の活動と参加につながるような、その人の生きがいを考えながら助言する。	多職種の意見を聞くことが学びとなる。 特にこれと言った内容は思いつけないが、主任ケアマネの助言(事例提供者の立場にたって共感しながら当事者目線の発言)する姿勢は、いつも感心する。	とても活かされている	院内ではカンファレンスや退院前訪問指導検討会などで対象者や家族の視点に立つて物事を考えるよう、科員に助言したりしている。 職員を同行させて気付き支援型地域ケア会議を見学するのも良いとは思いますが、業務時間内で行くことはなかなか難しい。	特になし。
リハ職	とても円滑である		・専門的な用語を使わず、わかりやすく簡潔明瞭に伝えることを意識している	・地域特性、地域での自主的な活動状況の情報は今後も是非いただきたい	活かされている	・自立にむけて課題を明確にし、携わる重要性を自団体で啓発する ・多職種連携の強化(多職種で考える機会)を今後も続けていきたい	
リハ職	とても円滑である	新規事例について、限られた時間の中で司会進行されており、限られた情報の中でうまく実施されていると感じている。論点整理やまとめでは、板書の方の力量がとても重要だと感じている。 掘り返り事例については、実施方法が検討が必要だと感じた。経過報告は要約してはどうか。	リハビリテーションという視点から、その方がどのような状況(疾患的、運動機能的、予後の的)におかれているのかを中心に質問や助言を実施するようになっている。課題としては、それらのことを正確に知る要として、質問項目も多くなってしまうので、質問項目をかなり絞って質問している。そのため、助言に対する正確性や不安がある。よって、今後のCM同行訪問事業は良い影響を与えると考えている。	その地域の状況(地域特性)をコーディネーターの方が語ってくれること それぞれの職種からの助言はいつも勉強させられる。	とても活かされている	今後必要なこととしては・・・介入している専門職同士が、多職種と会話する中で得たことを、同職種内で共有していくことが大切であると感じる。CMのリハ職もその他の職種の方も、個々人の力量の差が大きいと感じるし、それぞれの「専門性」については個々人で同じ職種であっても共有しているとは限らないので課題としては難しい。 利用者に対して、それぞれの専門職種が何を専門として何を実施しているのか、どのようにそこにつなぐのか・・・研修会やパンフレットなどの方法になかとは思うが、地域(専門職)に伝えていくことが大切なかもし各専門職団体同士との交流する機会の確保。	気付き支援型地域ケア会議が定期開催されている中、代表者会議の在り方について検討が必要と感じる。 アンケートについては記入が必要なものに関しては電子媒体の方が回答しやすい。
リハ職	まあ円滑である	いつも丁寧に司会進行して頂いていると思う。	自分が気になる事に対しての質問も行うことも多いが事例提供者の人が利用者さんの現状を管理できるような質問を行うようにしている。課題に関しては、本当に質問や助言がお互いの為になっているのかについて難しいところがある。	毎回、各職能団体でどの様に事例に対して考えているのか、わかる事が多い。 特に地域特性に関しては、知らない事が多いので助かっている。	活かされている	各職能団体の知識や経験を会議の中で学ぶことが多いので、非常に業務に行かされることが多い。	色々と会議を通して経験できることが多いので感謝している。 準備をして開催して頂き有難うございます。
リハ職	まあ円滑である	多職種の意見を採擇することができ、気づきが多かった。CMだけでなく、アドバイザー毎の気づきもお互いに共有できれば更に良いなと思った。また、尼崎市としての見解も合わせると良いのではないかと感じた。	助言をするにあたり、文面だけでは把握しづらいことが多く、可能な範囲での家屋の環境がわかる写真や、その人らしさがわかる写真など視覚的な情報があるとより具体的なアドバイスがしやすいなと感じた。	コーディネーター様の地域特性の説明はとても面白かった。口頭のみでなく、パンフレットなど地域資源がわかるものを共有できるツールがあるとさらにアドバイス内容を事前に考えられると思った。	活かされている	日ごろ関わっている多職種への連携時のコミュニケーション方法や提示の仕方などで活きていると思う。また、後進育成においてもこの経験は生きている。	地域ケア会議参加翌日には、得られた情報をミーティングで共有している。地域資源へつなげようと考えた際の具体的な資源の情報収集や連絡先などが不明瞭で、行動に移せていないことが多い。地域資源のマッピングなどあればありがたい。
リハ職	とても円滑である		一方的な意見にならないように、具体的に説明をする。	他職種の方の意見は自分とは違う角度で勉強になる。	とても活かされている	会議で内容の報告、検討をしている。	いつもありがとうございます。

気付き支援型地域ケア会議アンケート【助言者向け】

職種	問1 会議の司会進行(タイムマネジメント、論点整理、まとめ等)は円滑にできていますか。		問2 質問や助言をするにあたって、工夫している点や課題を感じている点があれば教えてください。		問3 会議の中で印象に残った助言(質問や地域特性の紹介などを含む)があれば教えてください。		問4 会議での「気づき」は専門職として自らの業務に生かされていると思いますか。		問5 自らの業務に活かされる「気づき」を、自らの専門職団体内で広めていくために自団体でされていること、できそうなこと、行政として支援できそうなことがあれば教えてください。		問6 会議全体を通じて、ご意見やご感想があれば教えてください。
		良かった点や改善すべき点などがあれば教えてください。						自由記述			
リハ職	まあ円滑である		ケアマネージャーの方や、当事者・支援者が望まれていることを理解するように心がけている。				活かされている	他職種のアドバイザーの視点に気づかされることが多くあり、日常業務においても様々な方向から考えるようにしようと思っている。	リハ職では尼崎PTOTST連絡会の中で報告している。他の職能団体で、「気づき支援型地域ケア会議」をどのように認識・情報共有されているか知ることが出来ればと思う。		
リハ職	とても円滑である	良かった点: ・最終的に事例提供者がすぐに取り組めそうな提案を挙げて頂くことは大切だと感じている。 ・冒頭の自己紹介は、とても意味があるように感じる。何となく皆さんとの距離感が近づいているような改善すべき点:	工夫している点: ・病状や身体機能における医療的アセスメントには意識している ・活動と参加における助言においては具体的にできることを(バリエーションなどのお土産) ・利用しているサービスの工夫(専門職種がいればアセスメントに活用することや他サービスとの連携、装具外来等医療的サービスなど) ・他の専門職との協働できるような助言(栄養と運動、地域資源と活動力) 課題: ・意図的でない事例に対して活動的にするような具体的な助言が難しい ・具体的な提案を意識しているがモニタリングで振り返ると、実際にはなかなか提案通りにできていないことが課題(使える提案をしなければいけない)	・主任CM:事例の人生歴を丁寧に聴取して、アセスメントに活かそうと助言されていること ・薬剤師:薬の服用が多い中、減薬できる可能性を助言されていること(意外とそういった事例が多い) ・生活支援コーディネーター:地域特性の説明はいつも勉強になる。		・病院での退院前カンファレンスでは、退院後の支援者の皆さまに説明する中で、予後の面を含めてどのように支援すれば自立支援に繋がるか、といった観点を含めて説明することができる ・地域におけるこのような他職種協働的な場面は、医療におけるチーム医療に繋がる ・他職種や家族様に患者様の説明をする際、わかりやすく説明する力が付く(他職種にはわかりやすいと言って頂けることが増えた) ・他職種の顔の見える関係になることで、日常の業務の中で患者様・利用者様を通して、連携が取れやすいことがあったり、何気なく業務をこなしている際に会って挨拶できることがある。	・顔の見える関係作りによって、日常業務で連携が取れやすいことを伝えたい。(具体的に役立てることができた事例を集約して広報・啓発していく) ・作業療法士として、県士会など職能団体の中で、地域ケア会議等の総合事業の内容として人材育成研修会を企画中(2月開催予定) ・協力者を集めることや参画する上で専門職として技能を上げること、などにおいて、市町の情報や取り組みについて必要に応じて、市町の情報や取り組みなどの提供を、必要時に提供をお願いしたい(もうすぐご協力頂いているが)	モニタリングを実施して、助言・提案された内容が実際にどのように繋がっているか、評価はできているかと思っています。(なかなか実際には使えているところまでは難しいようだが)しかし、挙げられた事例だけでなく、事例提供者であるCM様が、その後のケアマネジメントにいかに関与されているかどうかの評価が必要に感じる。ここに関しては、時間も必要で、いかに数値など見える評価をするかが課題になるようにも思う。			
リハ職	とても円滑である	予定していた時間通りに進行しており、話が脱線したりする事なく会議が進んでいたのが良かった。	事例に対してケアマネージャーがどういった返答が欲しいのかを自分の中で明確にしてから、自分の職種からできる質問・助言を行うように心がけている。	自分も含めて疾患や制限など主治医に確認したらどうかという助言が多いが、ケアマネにとってはその確認の仕方に色々課題があるのではと思う。自分もそうですが主治医から情報をもらう事は時間の都合を合わせたり要約してしまったりと簡単に確認できないのではと思った。	とても活かされている	自分自身、在宅の現場で多職種と関わる機会はありませんが、ここまでしっかりと他の専門職から考えや意見を聞く機会がないので、違った目線や知識が増える事で自分の担当している利用者様に活かせる事ができると思う。	会議などで得た気づきや情報・知識をアウトプットしている。	可能であれば医師の参加はできませんでしょうか。疾患に対する知識・制限などの考えが聞ける。また主治医の確認の仕方など各サービススタッフがどのように動いたら良いかなどのアドバイスも聞ける。			
管理栄養士	まあ円滑である		分かりやすく、実行できそうと思ってもらえるように気を付けている。抽象的過ぎると分かりにくくなるが具体的に過ぎると幅が狭くなると思う。		とても活かされている	PTさんや薬剤師さんCMさんなど普段なかなか聞けないことが聞けてとても勉強になっている。					
管理栄養士	まあ円滑である	・アイスブレイクがあるので、スタートが和む。 ・質問と助言の部分の壁がちょっと把握が難しい。	・自分の専門分野ではない所に、質問を入れたり、返答しても良いのか、躊躇する。 ・まったく栄養分野のアドバイスの注文が入っていない時に、話しても良いのか迷う。 ・助言される方が、CMさん達に渡されるプリント等、共有したい。	リハの部分で空白状態ので、かなり刺激になった。	活かされている	・歯と食事の関連性が一昨工程前から、云われ始めた。その事がこの「気づき」ではっきりと自覚が出来、講話の時に活かしている。		1年に1回で良いので、仲間同士の勉強会を希望。			
管理栄養士	まあ円滑である	助言者の方のお話しをよく聞かれていて、まとめもきちんとして発言されていると思う。	助言者の方、全員が発言できるように、自分の持ち時間を作るべく短く出来るように工夫している。毎回同じ質問(例:食事内容等)をしますので、出来れば事前に3日分位の食事内容を資料として提示してほしい。	お薬やリハビリ、口腔のお話やそれぞれの地域性の違いをお聞きするたびに改めて新しい発見が出来たように思う。尼崎に長い間住んでいるが、地域性の違いを感じる事もおもしろく思う。	活かされている	毎回、専門職からの助言をお聞きし、私自身の知らなかった知識が豊富で、助言者として参加しているが、それと共に勉強もさせていられるので、とても活かされていると思う。	ケア・ステーションで訪問栄養指導があるが、まだ尼崎市での件数が1件もないので、支援していただけたらと思う。	個人的意見だが、司会進行の方が助言者を順番に指名していただければ、助言者としては発言しやすい。			
薬剤師	とても円滑である	いつも、時間通りに会議が進行していて、定刻に開始して、定刻に終了しているので良い。	まだまだ、自分自身が勉強不足な面もあるため、準備をしっかりとした上で会議に臨んで、より良い質問や助言を出れる様に頑張りたいと思う。	特にこれと言っていないが、多職種のアドバイザーの方々が皆さんとてもよい助言をされていると感じている。	とても活かされている	事例提供や他職種の助言で地域ケア会議での気づきは沢山あり、とても勉強になる。それを普段の業務に応用できることは、取り入れるように心掛けていく。	尼崎の6つの地区毎に、気づき支援型地域ケア会議の報告書を尼崎市薬剤師会に提出している。	事例でQOLが向上した例と向上していない例があるが、会議の参加者にとってはとても勉強になる会議だと思う。今後も継続して頂ければ幸い。			
薬剤師	とても円滑である	司会進行の方が決まっていたのがよかったのかと。後半の2回ほどは進行者が持ち回りになったが、やはり慣れない分時間が延びて最後バタバタすることがあった感じだった。	薬がらみのことより食事等生活面でのことが問題になることが多かったのと、栄養士さんの助言と被らないような助言、提案をするように心がけている。栄養士さんが優秀な方だったので私自身の知識・経験不足もあり、補足することがなかったので申し訳なかった。	栄養士さんの食事指導が薬剤師としても指導の参考になるようなことが多く勉強になった。	活かされている	問3と被るが、食事についての指導については栄養士さんからの聞いた話が大変参考になっている。	昨年の時のアンケートを一覧にしてお示しいただいたように、気づきについては一覧にしていけると情報共有にもなっていたと思った。	2年間同じメンバーで開催できたのはよかったと思う。			
薬剤師	まあ円滑である	参加者も慣れてきて、スムーズに進行していると思う。少し内容がマンネリ化している傾向があるので、もう少し踏み込んだ内容にする等の改善は必要かと思う。	専門に備った助言ばかりにならないように他の参加者の方々にもわかりやすい表現を徹底しているつもりだが、内容によってはどうしても偏りがちになってしまう事がある。専門分野のみではなくオールラウンドケアが出来るような助言を今後も心掛けたい。	栄養学的な観点、歯科衛生士の観点での助言は勉強になる。	活かされている	実際に患者様と接する際に気付いて得たものはしっかりとアウトプットできている。	地域の住民の方に対しての健康フェスタの開催、お薬勉強会、麻薬の乱用防止活動など	事例提供者⇒アドバイザーからの質問⇒助言⇒まとめ⇒モニタリングという流れで実施しているが改善しない事例。モニタリング後のモニタリング(後追い)やアプローチ方法の改善等はこれからの課題だと思う。			
薬剤師	まあ円滑である	アイスブレイクでも和み、話しやすかったし、タイムキーパーになっていた点でスムーズな進行であった。ただ、予め質問事項を提出してもいいのでは？と思った	該当者の負担ができるだけ少なくなるように色々なパターンを考え、当日、質問をし、助言している	生活支援コーディネーターの方から地域特性を教えてください。認知症カフェなど該当者が参加できそうな所を教えてください。今後の参考に	とても活かされている	投票時、患者様、ご家族から相談を受けることが多い。助言する時に活かされている。特に歯科衛生士さんの助言は薬の飲みこみについて良い勉強になった	薬剤師会として歯科Dr.に健康フェアで講演していただいたこと。歯科衛生士さんの話も聞きたい。また理学療法士さんから体操指導をいただいた。行政からも多職種での健康フェア開催に継続して力を貸していただきたい	多職種で話し合えて、より良い意見を採用していけた良かった。時間的なこともあるので2例が限界かなと思う			
薬剤師	まあ円滑である	昨年より、質問と助言がきっちり分かれているので、進行がスムーズになった。	薬剤師としての立場だけではなく、医師や歯科医師がいなくても、医療職としての幅広いアドバイスができるように心掛けていく。	特に思い出せない。	活かされている	他職種によって視点が違うので、こちらの視野も広がって勉強になる。	行政にどのように支援してもらえばいいかは今のところ分からないが、他職種で連携取りやすいように連絡網のようなものがあればいいかもしれない。	回数を重ねるうちに、少しずつ良くなってきていると思う。			
薬剤師	まあ円滑である	基本情報、課題等全て読み上げなくても良いのかなと思う。助言者は資料に目を通してもらうので伝えたことだけ追加すれば意見交換の時間が短縮される良いのではないかなと思う。アイスブレイクは場が和むので良いと思う。	専門用語や普段使っている略語等をなるべく使わないようにして	緊急通報システムの設置。	とても活かされている	栄養、歯、地域包括等、勉強不足だった部分補えた。	勉強会、健康フェア	お互いが質問しやすい環境が大事だったと思う。			

気付き支援型地域ケア会議アンケート【助言者向け】

職種	問1 会議の司会進行(タイムマネジメント、論点整理、まとめ等)は円滑にできていますか。					
		良かった点や改善すべき点などがあれば教えてください。	問2 質問や助言をするにあたって、工夫している点や課題に感じている点があれば教えてください。	問3 会議の中で印象に残った助言(質問や地域特性の紹介などを含む)があれば教えてください。	問4 会議での「気づき」は専門職として自らの業務に生かされていると思いますか。	自由記述
薬剤師	まあ円滑である	2時間の会議だから2時間やらなければならないということではなく、意見が出尽くせばさっと次の議題に移り、早めに終了しても良かったかもと思う。	専門家として出席しているので、専門分野に絞った助言ができるよう努めた。	口腔ケアや栄養学的な助言は、普段の業務でほとんど意識しなかったので新鮮で刺激になった。	活かされている	自分の専門分野だけでなく患者さんのニーズをトータルで考える一助となった。
薬剤師	まあ円滑である		他職種の領域に関しては思うところがあっても発言を抑えるべきかと考えてしまう。		活かされている	
生活支援コーディネーター	まあ円滑である	冒頭のアイスブレイクは良いと思う。	地域福祉の観点からの助言をするようにしている。事例の対象者が地域とのつながりをどのようにして持つていけるかを考えて、助言をするようにしている。	薬剤師さんの助言で、薬の効果(「これは血をサラサラにする薬です」「これはお水で飲まない」と効果が半減します」等)	活かされている	
生活支援コーディネーター	とても円滑である		地域情報の提供を依頼されているので、担当課から事前に対象地区聞き取り、地域の民生委員や福祉協会役員、地域活動者に地域の状況を確認している。	歯科医師会や栄養士会の方など、普段聞けない提案や助言・アドバイスを聞けるので、とても参考になる。	あまり活かされていない	実際にケースに対応するCMIにとってはとても参考にできると思いますが、当方は長期的視点で地域支援を行う機関のため、個別ケースの対応はそのもの、直接支援を行う機会が少なく、応用しにくい。
生活支援コーディネーター	まあ円滑である		ケアマネジャーが実行できそうなこと。 ケアマネジャー支援する上で負担や重石にならないことができるだけ視野を広くとる。		あまり活かされていない	アドバイザーのみならずは、実生活で実践できることをアドバイスされており参考になるところもあるが、専門性が高い場合(お薬の話など)もおおく、業務に活かせるとはいいづらい。